

！

△自己責任&間違い御免！

シンギングボウル A4サイズ タテ型

Tibetan Buddhism Singing Bowl

『シンギング ボウル』

ネパール直輸入！ 今、注目の癒し楽器☆

お手軽 演奏♪ 歌うボウル？

ボウルのフチ(外回り)を、棒で何周も擦ると、
倍音が響いてきて、脳にリラックス効果♪

大きなものは体に当てがい、バチで叩いて
振動でマッサージ。(※自己責任！)

↑リングが大きい時は、
(棒を)普通に掴む。

↑リングが大きい時は、
(棒を)普通に掴む。

※ボウルをガッシリ掴んだり、載(の)せた
手の平が べったり密着してると音が出ません。

※横っ腹を叩くとダメージ！
フチの脇(わき)を叩きましょう。

チベット仏教のリン。400~430(?)ヘルツで#シャープやbフラットが強すぎない(?)と良いそう。
欧米では医療用として使われ、保険がきく国もあるとか。ドイツでは保育園に置いてるそう。

ポイント① ボウルは手から落ちない(摩擦)程度で保持。② リン棒を しっかり持ち、フチを外側からグルグルと強く こする。③ ボウルを傾け、動く棒に あてがう。④ 鳴り始めても速度を上げない。

金属製のものは基本 2種類。手打ち成形と鋳物。前者は丸い金属板を熱して柔らかくしてハンマーで叩き、冷めたらまた熱して、段々と器状に…。後者はタイヤキみたく、溶かした金属を型に流しこむ。

手打ちは 厚み・サイズ次第では 数枚を重ねて製造。厚い小型や 薄い大型は 製造が困難。一枚打ちの特大は、水を溜めて中に立ち、バチで鳴らしてもらうとマッサージ効果。(※妊婦や人工関節の方は×)

金属の使用量・配合順で倍音の長さも変化。金・銀・水銀 ・銅・錫(スズ)・鉛 ・鉄が材料の7メタル、金銀 無しの5メタルが有名。金は太陽、銀は月…など、金属を太陽系の惑星に見立ててるそう。

7メタルに使う金銀の量はホンの僅か。でもやはり音色が違います。錫(スズ)も意外と高価。新品の金属を使った7メタルや、その銀の使用量を2%に増やした 々高級品は、見た目もキレイで音も良し。

中古の金属を材料にすると音質が不安定ですが、運 次第(材料 次第)では、お買い得♪(闇ナベ?)

余談 其の壱:亡命中のグライ・ラマさんの村の一流職人作は、1個で数百万円だとか。(お布施?)

余談 其の弐:満月の日には、重力などが影響して良いボウルが出来るそうで、まとめて作ったりも…。

(*):欧米の強い要望で、最近の7メタルは水銀と鉛も使うそう。但し、EU基準値 以下という話。

☆金剛鈴 & 金剛杵 1

チベット仏教の法具

女性=智慧(ちえ)の象徴

『金剛鈴(こんごうれい)』

右手に金剛杵を持ち、己が煩惱を
打ち砕きながら、左手で金剛鈴を
鳴らし、仏に祈りを届ける。

男性=力(ちから)の象徴

『金剛杵(こんごうしょ)』

☆金剛鈴 & 金剛杵 2

こんごうれい こんごうしょ

『金剛鈴&金剛杵』Tibetan Bell & Vajra

チベット仏教の法具。セットで使う。

女性(智)の象徴。

左手で鳴らして
仏に祈りを届ける。

男性(力)の象徴。

右手に持ち、己が
煩惱を打ち砕く。

ティンシャの演奏法

『ティンシャ/Tingsha』

旅先 お祈り用. シンギングボウルの簡易版.

ヒモの中程を つまみ、フチ同士をぶつける.

公式 演奏法は2種(実際は地域ごとに異なる)

ティンシャの柄の説明 (梵字)

ろくじ だいみょう だらに

六字 大明 陀羅尼 / Om maṇi-padme hūṃ

『梵字(六字 真言)』

チベット仏教、3大おめでた模様の一つ♪

「オーン・マニ・パドメー・フーン(ペメ・フム?)」。

日本の「ナム アミダブツ」みたいなモノ☆

①オーン

②③マニ(宝珠)

④⑤パドメー(蓮華)

⑥フーン

繰返の意味(句読点?)

余談：裏の3文字 は『OM AH HUM』。

「お祈りを聞いてくれて ありがとう。」の意味だそう。

ウラが無地のティンシャや、オモテとウラ 両方

無地のティンシャもあります。(気持ちの問題?)

ティンシャの柄の説明（龍）

『竜/龍/Dragon』

チベット仏教、3大おめでた模様の一つ♪

仏教の竜王は、ヒンドゥー教の蛇神ナーガ

（責任感の強い、天候 管理者）が原型とされる。

中国の龍信仰と混ざって現在の形となったそう。

声は、銅タライを叩いたような音。鳴き声は、ラッパ。

ラクダ頭の上に博山(ハクサン)/尺木(セキボク)とシカのツノ。

アゴ下に宝珠。コイのウロコが81枚、ノド下の1枚は逆鱗。

うなじはヘビ、腹は蟹(シン)/蛟(ミズチ)、目はウサギ/オニ、

耳はウシ、トラの手にタカのツメ。原型はワニ/ゾウ/クジラ？

（ナーガに関して言えば、コブラを神格化したものだとか…）

ティンシャの柄の説明（八吉祥）

Tasi Tagge / 8 Lucky signs

『八吉祥(タシ・タゲ)』

チベット仏教、3大おめでた模様の一つ♪

タダでさえ、おめでたいマーク(吉祥)が、8つも！

欲張りデザイン、ここに極まる☆

メビウスの輪(?)

ホラ貝

天蓋

レンゲ(?)

魚座(?)

クスリ ビン

日除けパラソル

舵輪(?)

『Endless knot/吉祥紐/ベルベウ』 際限なき慈悲(愛情)に依る智慧の絆と、それがもたらす調和。

『Conch/法螺貝/トゥン』 ヴィシュヌ神のシンボルで、その妃 ラクシュミ女神の住み処。

『Victory Banner/Dhvaja/白い蓋/ギェルツェン』 遺伝子から来る欲求に仏性で打ち勝つ、勝利の旗。

『Lotus/蓮華/ペマ』 泥(俗世の汚濁)にまみれても根は腐らず、清らかな花を咲かせる(仏性を顕す)。

『Fish/金魚/セルニャ』 海(苦境)を、2匹分の力で 波に逆らわず 流されもせず、見事に乗り切る。

『Vase/宝瓶/ブムバ』 尽きる事なき宝(智慧)の詰まった瓶。健康を助け、繁栄と長寿を もたらす。

『Jewelled parasol/宝傘/ドゥク』 強い日差しや雨(苦悩や害悪)から身を守り、安らぎを与えてくれる。

『Dharmachakra/法輪/チューコル』 戦車の力強さとチャクラムの動きで、敵を倒す(迷いを晴らす)。

鑄型シンギングボウル インド製（ガネーシャ柄）

Ganesh

『ガネーシャ』

ヒンドゥー教の智恵の神。

父シヴァ神より宝を求められた際、

「親こそ 最高の宝。」と答えた。

そこでシヴァは皆に「何事も まず

彼に相談せよ。」と命じたと云う。

鑄型シンギングボウル インド製（ブッダ・アイ柄）

Buddha Eye

『ブッダ・アイ』

全知全能の神の眼。

仏教の五眼 最上位の仏眼。

肉眼 < 天眼 < 知恵の眼 < 法眼 < 仏眼

鼻(?)はネパール数字の1で

世界と生命の調和を表す。

鑄型シンギングボウル インド製（カツマ柄）

Vishwa Bajra / Double Bajra

『羯磨(カツマ)』

輪宝 同様、古代インドの

投てき武器で、手裏剣の原型。

十字 金剛とも呼ばれる。

祈祷の補助として 護摩壇の

四隅に置かれることもある。

鑄型シンギングボウル インド製 (カツマ柄)

※完売 & 廃盤

Ashtamangala / TASI-TAGGE

『八吉祥/タシ・タゲ』

吉祥紐(メビウスの輪?)

宝瓶(薬瓶)

蓮華

宝傘(パラソル?)

金魚(魚座?)

法輪(舵輪?)

白い蓋(天蓋)

ホラ貝

良い兆し'吉祥'の模様×8。

国や宗派で細部が異なる。